

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒の資質・能力を向上させるため、ICTを活用した組織的授業改善に取り組む。</p> <p>②新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、大学進学等の進路希望を実現させる学習指導を充実させる。</p>	<p>①1人1台端末の活用を推進するとともに、校内ICT環境の整備を進める。</p> <p>②新学習指導要領の3年目の実施を見据え、進路希望を実現させるための学習指導の課題に対応していく。</p>	<p>①授業改善のテーマとして1人1台端末などICT活用を提示し、日常の授業での活用を進める。またそのモデルとなる公開研究授業を組織的に実施する。特にハード面でのICT環境の整備を進める。</p> <p>②進路希望を実現させるための学習指導の充実や適切な履修指導等の課題に対し、各教科や関連グループと連携して対応する。</p>	<p>①授業評価で生徒がICT活用を実感しているか。ICT活用の具体例を共有することができたか。ICT環境が整備されたか。</p> <p>②課題に対し、各教科やグループと適切に連携をとることができたか。</p>	<p>①授業評価において「ICTを活用」項目の平均が3.0となった。</p> <p>①プロジェクトの購入を優先的に進めICT環境を整備した。</p> <p>②進路・キャリア支援グループと連携した履修指導を行った。</p>	<p>①ICT活用モデルの共有機会が不十分。日常の取組みを共有する仕組みを検討していく。</p> <p>①予算措置を講じて教材提示機器の1クラス1台体制をめざす。</p> <p>②身に付けさせた資質・能力の具体について、共有が不十分である。履修指導については学校としての在り方を示したい。</p>	<p>学びは楽しいだけでなく困難なども伴うものである。探究活動はすぐわかることを調べるのではなく、次から次へと問を立てていくものである。理念と現実のギャップをどう埋めるかが探究である。探究活動を踏まえて自由を求めて大学へ進学していくと良いと思う。</p>	<p>①ICTを活用した授業改善をすすめるとともに、ICT活用環境を整備した。1人1台端末導入2年目の教育活動の成果を踏まえ、さらなる活用に向けて教育環境を整備する必要がある。</p> <p>②新学習指導要領に基づき、本校の魅力と特色を具現化した教育課程の2年目を実施した。来年度からの実施の中で、必要な整備を継続していく。</p>	<p>①「学力定着のためのICT活用という観点」「日常でのICT活用の実践モデル」を職員間で共有し、授業改善をすすめる。引き続き1人1台端末に対応した教育環境整備を進める。</p> <p>②新学習指導要領の2年目の実施状況を踏まえ、必要なカリキュラム・マネジメントをすすめる。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。</p> <p>②組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。</p> <p>④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。</p>	<p>①校内や地域におけるルールやマナーを確認させ、生徒自身が自らを律しながら行動できるようにする。</p> <p>②職員間で生徒情報の共有を密にするとともに、新たに配置されたSSWを積極的に活用し、「かながわ子どもサポートドック」を踏まえたプッシュ型の相談体制を整える。</p> <p>③学校行事の企画・運営を生徒主体で行えるよう支援し、他者と協働して企画を運営していく過程で協調性と責任感を高める。</p> <p>④新入生の部活動加入率を向上させるとともに、部活動生徒を学校行事に深く関わらせることで自身の成長につなげる</p>	<p>①生徒や保護者、地域の方などからの意見を踏まえて校則を見直し、生徒にとって守るべきルールを自覚できるようにする。</p> <p>②昨年度から継続しているSCと今年度から配置されたSSWの連携を図り、生徒にとって適切な支援を行う。</p> <p>③生徒会主催行事の企画・運営を生徒会を中心に、委員会や部活動と連携しながら運営できるよう支援する。</p> <p>④部活動紹介を効果的に行えるように、生徒会役員や各部と連携をとりながら広報活動を行う。部活動生徒を生徒会主催行事の運営する側に加え、実施できるよう支援する。</p>	<p>①遅刻や身だしなみについて、自らの行動を見直すとともに規範意識を高めることができたか。</p> <p>②SCやSSWと連携し、生徒情報を共有しながら、生徒一人ひとりに応じたプッシュ型の相談体制を構築し、支援を行うことができたか。</p> <p>③生徒会主催の学校行事を生徒主体で企画・運営することができたか。</p> <p>④新入生の部活動加入率が前年度より上がったか。生徒会主催行事の運営に部活動生徒を取り込むことができたか。</p>	<p>①関係各所からの意見を集約し、生徒会役員と校則の在り方について考えることができた。</p> <p>②サポートドックの取組を通してSCやSSWのプッシュ型面談を設定し、さらに外部機関につながることができた。</p> <p>③6月の体育祭は、準備期間の関係で、教員主体の企画になったが、10月の文化祭は生徒主体で企画・運営ができた。</p> <p>④新入生の部活動加入率は前年度より約6%減少となったが、各行事の運営に部活動生徒を取り込むことはできた。</p>	<p>①継続して規範意識を高めるため、遅刻や服装の乱れに対して日常的な声かけによる指導等を粘り強く行っていく。</p> <p>②スクリーニング会議や面談時間を設定する業務の負担が大きかった。SCやSSWの業務が過多となった。業務の効率化を進めたい。</p> <p>③体育祭のように準備期間の短い行事を生徒主体で企画・運営できるようにするため、年度が替わる前から準備を進める必要がある。</p> <p>④軽音楽部をはじめ、高いレベルの大会に挑戦し結果を出す部活動がある反面、全体の加入率が減少した。本校に適した部活動の方針を策定するとともに、部活動インストラクター等を活用しつつ魅力ある部活動の組織づくりが課題である。</p>	<p>SC、SSWの負担軽減の取組みについては地域で出来ることを泉区でも考えている。遅刻の課題は学校だけで取組むのは難しい課題だと感じている。</p> <p>②サポートドックの取組により、多くの生徒の課題を見出し、SCやSSWのプッシュ型面談につなげ、外部機関と連携することができた。新たに配置されたSSWを十分に活用することができた。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症の5類移行をうけて、学校行事において生徒会役員等の主体的な取組による学校行事を実施することができた。</p> <p>④部活動の活性化に向けた取組を行い、高い結果を出す部活がある反面、全体の部活動加入率が減少した。組織的に指導力向上が課題である。</p>	<p>①保護者・地域・生徒会役員等とも連携して、生徒の規範意識を高める取組を行う</p> <p>②サポートドックの取組2年目に当たり、より効率的な運用体制を構築し、より有効な支援体制を構築する。</p> <p>③生徒の主体的な取組により、自己肯定感や他者を尊重し、協働する態度の涵養につなげることを意識した学校行事を実施する。</p> <p>④部活動の方針を策定し、組織的な指導体制の構築に取組む。生徒会役員や部活動加入生徒と連携し、加入率向上や活性化に向けた取組を工夫する。</p>	

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができる進路指導を展開する。	①生徒の進路希望実現のため、生徒・保護者への情報提供をきめ細く行い、丁寧なキャリアカウンセリングを実施する。  ②教員の授業改善やICTの利活用等により、これまで以上にキャリア教育の充実を図る。	①教職員対象の研修会を開催し、生徒・保護者への情報提供をできるだけ多く共有する。また、保護者への情報提供の機会を積極的に設ける。  ②授業がキャリア教育の大きな要素であることを意識し、積極的に生徒のキャリア形成に努める。またGoogle Classroom等を活用し進路情報提供を推進するとともに、生徒のICT活用による学習習慣確立を促す。	①多様な進路に向けての研修会を開催し、教員間で十分な情報共有ができたか。また、保護者への進路説明会等を開催し、情報提供をすることができたか。  ②日頃の授業でも生徒にキャリア形成を意識させ、将来の在り方生き方と繋げた学びを行わせることができたか。	①キャリア支援のための研修を年次ごとに実施し、生徒の個別指導に活用することはできたが、教職員全体での研修は実施できなかった。  ②キャリア教育推進もICT活用もさらに積極的に取り組む必要がある。	①生徒の多様な進路希望を念頭に置き、次年度は教職員全体に対しても、積極的に研修機会を設けたい。また、保護者への説明会、情報提供については、オンライン開催も含め検討し、より多くの保護者が参加しやすいよう工夫していきたい。  ②生徒の自己肯定感を醸成するための具体的な方策を講じたい。	私立高校の探究活動と比較すると県立高校の探究活動は生徒がやっていて楽しいのかと疑問を感じる。探究は楽しくてワクワクするものであるべきである。これからの大学は高校3年間好きなことを一筋やり通して進学するパターンが増えてきている。探究活動がそのきっかけになればいいと思う。自己肯定感について普段の学びの場から意識するとよい。やらされている意識があると自己肯定感を育むことはできない。	① 計画的なキャリア教育を実践することができた。PTA総会と連携し、保護者に進路情報提供を提供した。今後もさらなる改善を加え、生徒の希望進路実現につなげる指導・支援を行う。  ③ 1年次にスタディサプリを導入、生徒の学習習慣の見直しに結び付けることができた。今後は、導入を2年生に拡大し、探究活動や学習支援を充実させる。	① キャリア支援のための教職員対象の研修機会を充実させる。ICTの利活用も含め検討をすすめ、生徒・保護者への情報提供の機会を工夫する。  ② 総合的な探究の時間を活用したキャリア教育体制を見直し、再構築する。スタディサプリの活用により、学習習慣の定着、学習支援・探究活動の充実を図る。
4	地域等との協働	地域の教育力を活用し、実践教育を推進する。また、本校の教育活動を積極的に発信し、相互理解を深める中で地域に貢献する。	①地域との協議により、感染症対策に配慮した地域交流を企画し、実践する。  ②学校生活が「コロナ以前」に戻る中、本校本来の活発な教育活動を分かりやすく積極的に発信することで、地域からの信頼を得る。	①感染症対策を徹底し、地域のイベント支援、ボランティア・清掃活動等に多くの生徒が参加できる環境をつくる。  ②学校説明会や学校見学会の受け入れ人数を増やし、対面での情報発信の場を多くするとともに、ホームページの更新回数も増やす。	①地域との交流に参加した生徒の7割以上が貢献意識を高め、人間的成長を感じることができたか。  ②学校説明会等の受け入れ人数を十分に確保するとともに、ほぼ同量同質の情報発信をホームページから発信することができたか。	①1月に通学路清掃を行い、地域に貢献した。 ①地域の幼中高大の連携イベントを実施した。 ②説明会等の参加人数が大きく増加し、HPの更新回数も増えている。	①自発的に活動できるように指導を継続する。 ①イベントの運営体制について、他校との連携を深めたい。 ②志願者数から本校に興味を持つ中学生が増えていることが分かるが、今後は全職員体制でアピールできるかが課題である。	地域は学校に向けてどんな支援ができるか話し合っていきたい。志願者数の増加については理由を分析するとよいと思う。生徒がどのように学校を把握しているかわかる。受けたい理由を子供たちは「先生や生徒がみんな楽しそうだ」と言っている。文化祭や防災対策でPTAがもっと連携していきたい。	① 新型コロナウイルス感染症の5類移行をうけて地域交流・地域支援実施することができた。  ② ホームページをこまめに更新し、情報発信をすることができた。広報活動を充実させ、学校説明会等への参加人数が大きく増加した。	① 地域との協議により、地域交流を企画し、実践していく。地域の教育機関との連携をより深める。  ② 職員全体で本校の魅力をアピールする方策を検討したい。ホームページのコンテンツを見直し、本校の魅力を発信するとともに、より一層更新頻度を高めていきたい。
5	学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②三ツ境養護学校分教室の受入れを完成し、本校の教育活動との融合を図り、インクルーシブ教育をすすめる。 ③事故・不祥事を起こさない職場づくりをすすめる。  ④教職員の働き方を見直し、休暇取得率をあげる。	①感染症対策を含めた衛生管理体制と防災体制を推進し、強固な体制を構築する。 ②ワーキンググループを中心に分教室と連携を図り、教育活動融合計画を策定する。 ③常に当事者意識を持ち、不祥事ゼロを実現する職場づくりを行う。  ④休暇の取得日数の増加と超過勤務時間の減少を目指す。	①国や県の対策をふまえて、体制を整備し、生徒への保健指導を徹底する。  ②教育活動の融合を図るにあたり、課題を整理し解決する。  ③不祥事防止研修や事例紹介、セルフチェックを継続して実施する。  ④衛生委員会を活用して、休暇取得状況及び超過勤務時間集計を把握して、職員に啓発する。	①清掃活動・消毒作業等を徹底し、校内での感染防止につなげたか。  ②教育活動融合計画を策定し、初年度の取り組みとして適切に運用できたか。 ③当事者意識の高い職場をつくり、不祥事ゼロを達成できたか。  ④昨年比で休暇の取得日数は増えたか。超過勤務時間の平均は減少したか。	①月1回トイレ清掃業者を入れて感染防止を図った。 ②教職員の授業見学、生徒の部活交流、文化祭参加により相互理解を図った。 ③職員主体の不祥事防止研修を実施し、不祥事ゼロを達成した。 ④超過勤務状況を衛生委員会で確認し、産業医の面談を実施した。	①ゴミの分別が確実にできるように指導を継続する。  ②交流機会の拡大を図り、インクルーシブ教育の理解を進めていく。  ③セルフチェックと職員主体の研修を継続し、不祥事ゼロを継続する。  ④超過勤務状態確認と産業医面談を継続し、1日単位の休暇取得の呼びかけを継続する。	座学だけではない学びが高校の教育活動にもある。ごみの分別などについても生徒に考えさせたりすることで解決策を見出すとよい。校則についても同様である。また、広報活動や部活動なども学びの機会としてほしい。	① 感染症対策のため業者によるトイレ清掃を継続した。ゴミ分別について指導を徹底することができなかった。 ② 連絡会実施、学校行事・部活動での生徒間の交流、教員間の連携など順調に初年度を開始できた。今後は協力体制をさらに充実させる。 ③ 不祥事防止研修会を実施するとともに、点検体制の整備をすすめた。 ④ 服務管理のオンライン化により、業務改善を図った。超過勤務者が減少した。	① 予算確保に努め、業者によるトイレ清掃を継続する。ゴミ分別について環境問題への理解を深め指導を継続する。  ② 1年目の成果と課題を踏まえて、分教室と連携を密にとり、交流機会を拡大する。  ③ 引き続き研修会を工夫するとともに、チェックシート等を用いた点検を実施する。  ④ 業務改善を進めるとともに、超過勤務者の減少、1日単位の年休取得の呼びかけを継続する。